

項	目次
1	用語集とサマリー
2	政治情勢の変化

用語集

KR	クルド人地域
KRG	クルディスタン地域政府
PMU	人民動員部隊 (政府が種族や宗教に基づいた人民軍を構成。シーア系 PMU はイラクと関係が深く、数はとてつもなく多い。)
US	アメリカ合衆国

この文書はジャパン・プラットフォーム内およびその関係者のみの利用に限ります。この文書は、JPF セキュリティアドバイザーの同意なく、再配布することを禁じます。

本レポートの情報源として、以下の団体が提供するものを参照しています：

Mercy Corp Humanitarian Access Team (MC HAT), INSO, and websites including, but not exclusive, Institute for the Study of War, Chatham House, Human Rights Watch, Al Jazeera, SouthFront, Rudaw, Al-Monitor, iMMAP, and Reliefweb.

お断り：情報源の団体名は原文ママ)

以下文書内で“コメント…”とイタリック体で記載され、後述の文章もイタリック体で記載されている場合、筆者の意見を述べており、事実ではないことがあります。

免責事項: この文書の目的は、情報と分析をし、アドバイスを提供することです。ジャパン・プラットフォームは、この文書に基づき、読者がいかなる行動や措置をとった場合でも、責任を負いかねますことご了承ください。

サマリー:

5月の選挙以来、イラク中央政府の組閣が政治的に暗礁に乗り上げており、反対派勢力が武力を持って膠着状態を壊そうと動機づけている可能性がある。潜在的な「実力者」、つまり膠着状態を壊そうとしている者は議会のクルド人メンバーである。だが、彼らは2018年9月の終わりに行われるKRG総選挙で互いに戦う別々の政治政党に分裂して存在する。Bagdadにおける情勢が長引くほど、シーア派政治連合が武力を伴う衝突を起こす可能性が高い。

1. 政治的情勢の変化

ポストナショナル選挙

5週間前に選挙の再集計結果が発表されたにも関わらず、イラクで選出された政治家は未だ政府を組閣していない。2つの多数派を占めるシーア派連立が「最大の連立」を構成するための十分な議会メンバーがいるとした発言した上で、次期イラク首相を決定する憲法上の権利を有すると主張している。一つは新しい16派閥で構成された連立で、シーア派指導者 Muqtada al-Sadr が主導する政党 Sairoon と現首相 Haider al-Abadi al-Nasr が所属する政党が含まれている。理論上、連立政権は329議席中96議席確保しており、米国の支援を受けている。

対して反体制派としてイランと関係が深い、PMU 指揮官 Hadi al-Ameri と提携した前首相 Nouri al-Maliki が率いる al-Fatih 連合が存在する。彼らは48議席を獲得したが、al-Abadi とその連合が Sairoon への背信行為を起こしたことにより多くの議席を保有していると主張している。

コメント: いずれの連合も主要なクルド系政党のクルディスタン民主党(KDP)とクルディスタン愛国同盟(PUK)に所属する43名のクルド人議会メンバーを含んでいない。クルド系メンバーは、潜在的な「実力者」であり、過去も同様な役割を果たしていた。イラク中央政府とKRGの間にある主要な課題が、クルド人達によっては交渉を通じて譲歩を引き出すチャンスになるかもしれない。しかしながら、KDPとPUKは、9月30日に開催されるKRG総選挙において互いに敵対的立場にいる。互いがこの政治的情勢を最大限利用するために、今度の選挙キャンペーンが二つの政党がBagdadで共同活動することを妨げる可能性が高い。

Bagdadで発生しているシーア派グループ感の政治的戦いに対する恐れが広がっており、この戦いは政治的な膠着状態を壊そうとして次第に暴力的になっている。米国の al-Abadi/Sairoon 連合を支援し、イランが al-Maliki/al-Ameri 連合を支援しているという地籍学的要素によって成り立っている。以下に代表される直近の事案が更なる事態の悪化を示している。

- al-Abadi 首相がPMU(多くがイランの支援を受けていたシーア派国民軍)を管理下においていた国家安全保障担当補佐官を更迭し、自分自身で管理する事を決めた。目的は前補佐官にPMUを利用されない事を確実にすることで、この公的は複数のシーアPMUに非難された。
 - 3撃の追撃砲が米国大使館の近く、Bagdadのグリーン・ゾーンに当たった。
 - 不適切なサービスと腐敗に対する抗議行動としてBasuraで暴動が発生、群衆はイラン領事館とPMU本拠地を攻撃し放火した。同様に政府関係のビルやal-Abadi 政党オフィスも攻撃を受けた。
- 更なる政治的停滞があれば、将来的に暴力行為は続くであろう。

KRG 選挙

2018年9月30日にイラククルディスタンで総選挙が行われる予定で、この選挙では大統領と議会員の双方が選出される。議会選挙では700名以上の候補者が111の議席を争うことになる。クルド系政治団体は100の地域議席を争い、マイノリティー政党は割り当て制度を通じて残りの11議席をめぐる戦うこととなる。有権者は300万人で、キャンペーンは9月11日から主要都市で複数の決起集会が行われた。大統領は別で選出されるが、閣僚は議会の多数派を占める政党から選出される。大統領は更に首相と共に行政権を持つことになる。前大統領のMasoud Barzani氏は2017年9月に行われた独立国民投票の余波の中、役職を去り、この投票の多数が独立を望み、結果としてKRGの孤立と、イラク中央政府の軍事的、経済的行動へと繋がった。

コメント: 2018年5月に行われたイラクの国家議会選挙の低い投票率を鑑み、今回の選挙も投票率が低くなることが予想されている。KRにおける選挙前に暴動は常に懸念されている。過去にも地域にはこびる小規模な武装勢力と与党の間であったからだ。

5月の選挙では、二つの与党、KDPとPUKがKRに割与えられた議席の殆どを獲得した。野党連合が主導するゴラン運動が、主要政党の選挙における詐欺行為があったことを非難し、結果を拒否した。今回の選挙ではKRにおけるパワーバランスを大きく変える力はないと考えられている。選挙後運動は詐欺行為や汚職に対する申し立てが行われるだろうが、大規模な混乱には至らないだろう。新しいKRGは以下に記述の通り、いくつかの課題を抱えている:

- 2017年9月の独立国民投票によって失われた国の約半分の原油輸出能力がより経済状態を経済悪化させた。
- 中央政府との独立投票と中央予算配分にまつわる緊張に高まり。
- 政府従業者への給料未払いに対する社会経済上に抗議活動しかしながら、政府が「実力者」として、KDPとPUKに所属する議員による新イラク政府組閣は、KR総選挙に関係なく行われる可能性もある。